

第3期宮前区区民会議 第11回 活力づくり部会 摘録

日 時 平成 24 年 1 月 31 日 (火) 18 : 00 ~ 20 : 00

場 所 宮前区役所地域振興課奥会議室

参加者 委 員 山下委員長、直本副委員長、佐藤部会長、大村委員、藤田委員、
恒川副委員長 (オブザーバー)

事務局 有山企画課長、雨宮係長、白石職員
阿部コンサルタント

1 提案の検討について

- ・ 事務局、佐藤部会長より資料 2 を説明

1) 写真の番号の振り方について

- 山下** 写真の順番を上から順番にふってほしい。
- 藤田** 写真を載せている前のページのコースの位置に合わせて写真を配置している。
- 佐藤** 上から順番のほうがよいか。
- 藤田** 宮前区のはコースの位置に合わせるイメージだが、目黒区のマップはそうしていない。目黒区のマップと同じほうが分かりやすい。
- 佐藤** 上から順番に番号をふる方が分かりやすい。
- 藤田** 1コースであれば良いが、6コースもあると、写真が1から順番になっていないとおかしい。
- 直本** コースの位置をうまくなぞることができればいいが、無理であれば順番にしたほうがよい。

2) マップに掲載するキャラクターについて

- 佐藤** 宮前区 30 周年を記念し「宮前兄弟」というイラストが生まれた。
- 区** キャラクターの設定として、男の子の「メロー」が体を動かすことが得意な設定となっている。また、ロゴマークの「M」は区内に多い坂道をイメージしている。ロゴマークは 30 周年のその場限りの使用ということだが、「宮前兄弟」は、30 という数字を外して今後も使っていく。「宮前兄弟」とカッパーク鷺沼の「カッチャン」のどちらを使うか。
- 佐藤** カッパークがあるコースだけ「カッチャン」を使ってはどうか。
- 藤田** どちらかのキャラクターに統一しないとおかしい。
- 佐藤** 特に異論ないようであれば、「宮前兄弟」に統一する。
- 恒川** (キャラクターに関連する) メロン畑やコスモス畑がどこにあるかわかるようにしたほうがよい。
- 区** コスモス畑はなくなってしまった。
- 藤田** だから無理ではないか。

第3期宮前区区民会議 第11回 活力づくり部会 摘録

3) トイレの表示

佐藤 マップに載せている施設からトイレの位置を載せないでほしいという意見があった。載せてしまうと、乱雑に扱う人がいるようだ。また、宮前ガイドブックは掲載できないこととなっている。

4) 次年度以降の検討体制

藤田 今回の提案をもとに次の組織がブラッシュアップしていくのではないかと。平成24年度は、新たに組織を立ち上げてというより、ある程度マップの骨格はできているので、適宜活力づくり部会委員にマップを見てもらい、意見をもらうこととしている。

山下 第2期区民会議提案はずっと作業を続けているが、そんな感じでやってもらってはどうか。

佐藤 第2期は実行委員会形式ということで提案の中で組織化について継続してやっていくことを提案した。その反省を踏まえて、今期は早め早めに作業してある程度形をつくった。

藤田 わざわざ実行委員会などをつくる必要もない。

恒川 活力づくり部会が関わりながらマップをつくっていくので、それでいいのではないかと。

5) ルビ

直本 坂道の読み方で読める地名と読めない地名があるので、読めない地名はルビを振ったほうがよい。

佐藤 コース紹介ページはごちゃごちゃしているので、写真紹介ページにルビを振ったほうがよい。

コンサル 写真紹介ページよりコース紹介ページが先に来る。コース紹介ページはごちゃごちゃするという意見もあるが、それはうまくデザインすれば問題ないと思う。ルビを振れるのであれば、マップの全てにルビをつけたほうがよい。

6) 全コース案内図への情報追加

区 全コース案内図に各コースが何ページに掲載されているかということ、距離を入れたほうがよい。コースを選ぶ際に目安となる。また、各コースに記号や番号を付けたほうがよい。

直本 距離と高低差が必要ではないか。

区 高低差は累積か、最大と最小か。

コンサル 高低差は最大と最小の差を示すのではないかと。

藤田 ページをめくって自分でコースを選んでもらってはどうか。

直本 各コースに番号を振って、距離を表示してはどうか。

第3期宮前区区民会議 第11回 活力づくり部会 摘録

7) バス停マークの表示

- 佐藤** バス停マークを入れてはどうか。スタート・ゴールに掲載しなくてよいか。
恒川 歩く方の判断で良いのではないか。道路の写真にバスが通っている写真があ
っていいのではないか。

8) 各コースの修正について

(1) 野川の坂と影向寺コース

- 直本** コース名で「野川～」、「富士山眺望～」と他のコース名が少し違う。他のコ
ース名は探訪や散策といった言葉が入っている。
「野川～」のコース名は影向寺の後ろに「歴史」と入れてはどうか。

(2) 富士山眺望と等覚院コース

- 直本** 8番は「たいら坂」ではないか。
山下 鶴喉坂は坂道の下まで行く必要があるのか。
藤田 道標が下にしかないと、それを見るためには下まで行かないといけない。
区 道標まで降りる実線部分をコースから削ってしまえばいいか。

(3) 平瀬側と生田緑地探訪コース

- 佐藤** コース中に生田緑地周遊散策路を使うということでよいか。
全員 (特に異議無し)
直本 生田緑地周遊散策路の高低差は分からないのか。
事務局 下水道の資料から高さを出しているが、散策路は下水道が整備されていない
ため、分からない。散策路を設計した本庁に聞けば分かるかもしれない。
直本 高さを測ることができる機械があるため、それを活用しても良い。

9) スタンプラリー

- 佐藤** マップ自体にスタンプラリー台紙をつけたほうがよいという話があったが、
どのようにしていくか。台紙の使い方をどのようにするか。
世田谷区や昭島市ではこすり出しをやっている。道標にこすり出しの板(10cm
×10cm程度)がついており、鉛筆などでこすり出しながら回ることができる。
世田谷区はこする部分が石でできており、メンテナンスに問題があるようだ。
昭島市はステンレスを使っており、今のところ問題ないようだ。メリットとし
ては、自由にどんなときでも回ってもらえること、イベントや団体ごとにシー
ルやスタンプをつくる必要が要らないことが挙げられる。宮前区の坂道の道標
は割れているものもある。壊れているとイメージダウンにつながってしまうの
ではないか。
直本 マップと一緒に提案するのか。マップとは別に提案するのか。道標を立てるの
はそれだけで費用がかかる。どれくらいかかるのか。
佐藤 予算的な問題は今後相談するとして、そもそもそれが良いか悪いかの議論が必
要である。第2期の公園の掲示板のときも1基10万円かかっている。ほんとは

第3期宮前区区民会議 第11回 活力づくり部会 摘録

もっと付けたかったが、つけられなかった。

直本

半永久的にメンテナンスを最小限に抑えられるといい。新たに道標をつくるとなると、今提案して間に合うのか。

佐藤

何年かかけて、整備してもらおうという提案をすることになると思う。

直本

将来的な方向性としてはいいと思う。スタンプラリーをどうするか、地参知笑との関係などを考慮し、継続的な形で+ につながるという提案と2段階で考えていいのではないか。

佐藤

マップと連動した場合、設置が間に合わないと思うので、道標を整備してもらうことを考えたほうがよい。

スタンプラリーコーナーをつくるかということだが、スタンプシールがマップについていて、18の坂道があれば、約20のシールがついていて、該当する坂道に行かないとどのシールを貼っていいかわからないというスタンプラリーをやったことがある。

直本

景品があるならいいと思う。

坂道の名前と一緒に携帯などで写真を撮って、どこかに貼って出してもらってはどうか。

手間をかけずにできるという点では、いいのではないか。

佐藤

高齢者に配慮してということを見ると、若い人はカメラや携帯電話をもっていき、年配の方にカメラを持ってきてもらって、写真を現像してもらったことが大変なのではないか。多くの方が回りやすいということを見るともっと簡単なほうがよい。

藤田

本来的には坂道の前にあるお店でスタンプをもらえるといいが、6コースごとにどこかのこども文化センターに行くと、そのコースにある坂道分のシールがもらえるといったことにしてはどうか。6コースごとに置いてもらえるところを探す必要がある。各コースともほとんどこども文化センターがあるし、それがないところは区施設とフロントウンでカバーできるのではないか。全部集めたら、年に1回区民祭のときに景品をもらえるということにしてはどうか。

佐藤

シールの管理はどう考えているのか。

藤田

そこが問題。

区

マップにシールを付けてしまえばいい。地参知笑では作成する冊子にクイズを入れることになっている。6コースあるので、1コースに2問のクイズをつくり、坂道に行って、YesかNoというシールを貼るということにしてはどうか。そのほうが簡単。マップさえあればよくて、手間がかからない。

藤田

どのアイデアが一番いいかだと思う。

佐藤さんの案もいいと思う。3cm×3cmくらいのこすり出しの板をつくって、坂道の道標に設置すればいいのではないか。

区

こすり出しのデザインを考える必要があることを考えると、時間的に厳しい。

佐藤

デザインには区民会議と坂道名、坂道のデザインが入るといいと思っている。

藤田

マップにこすり出しのページをつけると、こすりにくいのではないか。

第3期宮前区区民会議 第11回 活力づくり部会 摘録

- コンサル 18の坂道があることを考えると難しいかもしれない。
- 藤田 こすり出しの部分の部分を別冊にして、販売してもいいかもしれない。
- 佐藤 世田谷区のは200円で販売している。イベントのときに景品がもらえるようだ。昭島市は景品はないようだ。
- 藤田 いかにか手間ひまをかけないか。いいアイデアがたくさん出ているが、それが実行できるか。
- 佐藤 マップにシールがつくのであれば、マップ自体にシールを挟んでおけばいいので、管理するのは自分で楽。こども文化センターに取りに行くということだと、限られた時間しかいけないので困る。坂道に行かないと分からないというほうがよいかもしれない。
- 坂道にあるマークと同じシールを貼るということも考えられる。
- 区 坂道の写真をとって、パソコンでイラスト化し、坂道名だけ見えないようにし、この坂道はどこの坂道かというクイズも考えられる。
- 藤田 これまで出た意見の中であと半年でできるものがあるかどうか。自己満足でもいいから回ったという励みになるものがほしい。だから景品はあまり考えなくて良いかもしれないが、ただ子どもに何かないといけないと思う。
- 佐藤 実際に景品を出すことになれば何とかなるのか。
- 区 宮前区観光協会や商店街などに協力をもらうことになる。
- 直本 問題は維持管理だと思う。
- 藤田 佐藤さんのアイデアは素晴らしいと思うが、できるかどうか。デザインを考慮しないのであれば、簡単だと思う。
- 佐藤 1個1個デザインが違っていると、集めて楽しい。
- 恒川 最初からお客さんにいろいろ考えてもらうのは難しいので、30周年のイベントで協力してもらえればいいと思う。とりあえず最初からスタンプラリーに注力しなくてもいいと思う。
- 直本 スタンプラリーのためだけにマップをつくるわけではない。
- 恒川 坂道を歩いてもらうことが目的である。
- 佐藤 その歩いてもらうための手法としてスタンプラリーがあるのではないかと。つくっただけではだめという議論を重ねて、スタンプラリーをやるという話が出ていたと思う。
- 恒川 スタンプラリーを否定するわけではない。財政的な問題やデザインの問題がある。
- 佐藤 必要ということが示されれば、予算要求は可能だと思う。
- コンサル クイズ形式にして、他のページで使っていない写真を使用して、どこの坂道かを回答してもらってはどうか。簡単にできる。イベントで回答公表ということでもいい。
- 恒川 そんなに難しくなくてもよい。興味をもってもらえればいい。
- 山下 区民祭などで景品を渡すしてもよい。
- 佐藤 そうすれば、地域のイベントに参加してもらうことにもつながる。

第3期宮前区区民会議 第11回 活力づくり部会 摘録

- 恒川 カルタとどれだけ連動できるか。それをクイズにしてもいいかもしれない。
- 藤田 カルタは全てできあがってしまったし、18の坂道全てに関連しない。
- 大村 カルタに読まれている坂道はいいが、読まれていない坂道が問題。
- 佐藤 部会で何かしらの手法を決められるか。それともスタンプラリーの台紙をつくるまでとするか。
- 直本 もう少し方向性を示したほうがよい。
- 藤田 ワーキンググループで打合せをしてもう少し詰めたほうがよい。
- 直本 企画部会までに詰めてもらえるとよい。方向性だけ決めてもらえればよい。

10) 高齢者への配慮

- 区 イベントなどに高齢者が参加しやすくするような配慮を提案できないか。
- 恒川 どういう高齢者を対象に考えればいいのか。
- コンサル 坂道ウォーキングに行きたいけど、億劫で行けないという高齢者が対象にするではないか。
- 区 普段からウォーキングをしていてやる気がある高齢者というより、坂道ウォーキングに躊躇してしまう高齢者が対象ではないか。
- 藤田 高齢者への配慮としては、マップの「はじめよう！坂道ウォーキング」の中で配慮へのコメントをするくらいではないか。
- 直本 地図中に座れるベンチが書いてあるし、高低差も分かる。具合が悪くなったら、こちらまでといった情報があるとよい。
- 恒川 マップのはじめにいろいろ高齢者に配慮することを書いているのだから、あとは利用する高齢者の個々の判断に任せればいいのか。
- 佐藤 イベントで景品をあげるときに、高齢者の場合は1コース回ってきたら、若い人の場合は3コース回ってきたらといったことを考えればよい。
- 区 イベントのときには高齢者に配慮するという一文が1行くらい必要だと思う。
- 区 高齢者への配慮は議論しておくべき内容であると思う。フォーラムのときも同じような質問が出てくると思う。マップに高低差のことも書いてあるので、高齢者に配慮したことを記載してもらえればよいと思う。
- 直本 編集後記でも「体調に気をつけて活用する」といった一文を入れたほうがよいと触れたほうがよい。
- 恒川 ショートカットが入っている点も配慮しているポイントである。

11) 6コース以外の取扱いについて

- 佐藤 犬蔵や菅生ヶ丘のコースがないが、今回のマップは18の坂道を対象とするが、今後発展することがあれば、6コース以外のことも入れていくということかどうか。
- 恒川 犬蔵や菅生ヶ丘などのコースが抜けた地域についても今後検討を加えていく、坂道を宮前区の資源として坂道の表示をどうしていくかということを検討するという文章を今後の課題として載せられればよい。
- 表示板、掲示板、道標といってしまうと、はっきりしすぎるので、区全体の坂

第3期宮前区区民会議 第11回 活力づくり部会 摘録

道を対象に検討し、歴史的な資源などについて区民に知ってもらう手法についても検討していくとしてはどうか。

佐藤

資源というのは坂道とは関係なくということか。

直本

坂道の周辺には歴史的な資源があるので、そういったものを紹介していくということではないか。

区

今後イベントを実施すればそういったものが出てくると思う。影向寺のように、坂道を歩く中で坂道だけでなく、地域の資源を知ってもらえると思う。

山下

地域的なバランスをとる必要がある。

直本

あんまりバランスをとっても面白みがなくなってしまう。

恒川

マップをどう発展させるかということは提案に入れておいたほうがよい。38の坂道や新しく開発された犬蔵などにある無名の坂道などについて、愛称の募集が必要かどうかということも選択肢として残しておきたい。

12) マップの配布について

佐藤

マップのPRは市政だよりを通じて広報し、区役所などに取りに来てもらえるということか。

山下

目黒区のマップは当初2,000部作成し、それが増刷し4刷までになっている。結果として約10,000部作成している。宮前区も目黒区と同じように人気が出る可能性がある。

佐藤

区役所に取りに来てられない人がターゲット層とと思っているので、配布方法も議論したかった。

区

出張所や行政サービスコーナーなどの公共施設でも配布する。

佐藤

フロントタウンなどで置き、若い人が入手しやすいところにも置きたい。

恒川

市政だよりでは、マップができたこと、マップの配布場所をお知らせしてもらえるとよい。

佐藤

日中通勤している人たちも活動に巻き込みたいと思っているが、そこに思いが届かないと意味がない。

恒川

発行してみないとどれくらい無くなるか分からない。当初はどれくらいの部数を作成するのか。

区

現段階では予算要求では2,000部を予定している。

直本

2,000部ではほとんど行き渡らない。

恒川

せめて転入者分くらいは用意すべきではないか。

区

2,000部で足りないのであれば、追加印刷も可能である。

直本

2,000部では自由配布できない。

恒川

自由配布できなければ、イベントのときに活用できない。

直本

イベントのときは改めて印刷することになるのではないか。

佐藤

人気が出たからといって、途中から有料にすることはできないと思う。

区

最初無料にしてしまうと、途中から有料にはできない。なぜ有料にしたか明確な理由が必要となる。

佐藤

いろんな世代に届いてほしい。区役所などに普段来ない人をターゲットに考

第3期宮前区区民会議 第11回 活力づくり部会 摘録

えたい。

直本

駅はマップの見本だけおいて、区役所などに取りに来てもらえばよいのではないか。

大村
区

各町内会・自治会に10刷くらい配布して、PRしてもらえるとよい。
それだけで720部無くなってしまう。

2. 区民会議フォーラムについて

- ・事務局より資料3を説明

1) 事例発表者の選定

山下

事例発表者の2名が地元という感じがしない。自治会などの可能性はないか。

佐藤

若い世代ということで、カンガルー宮前子育てねっとわーくはどうか。

区

カンガルー宮前子育てねっとわーくという話も出たが、ひまわりサロンが1周年を迎え、詳しく話を聞きたい人がいるし、時間も25分程度とし、掘り下げて話を聞いてはどうかという要望が地参知笑部会からあった。

2) 役割分担

- ・当日の担当は以下のとおりとする。

| 担当 | 氏名 |
|-----------|------|
| 受付係 | 藤田さん |
| ティータイム対応班 | 豊島さん |
| カルタ班 | 大村さん |
| | 直本さん |

3) イベントの参加者増加について

- ・各委員知り合いなどにイベントへの参加を呼びかける。

(以上)